

第5章 まちづくりセンター別人口

1 人口

令和2年10月1日現在の人口は、西区の「西町」と白石区の「白石」で4万人を超える（第5-1表、第5-1図）

本節では、令和2年10月1日現在の国勢調査における人口をまちづくりセンター別にみている。まず、令和2年10月1日現在の人口（1,973,395人）について、全市を86に分けたまちづくりセンター別にみると、人口30,000人以上のまちづ

くりセンターは22か所、20,000人～30,000人未満のまちづくりセンターは30か所、10,000人～20,000人未満のまちづくりセンターは22か所、10,000人未満のまちづくりセンターは12か所となっている。

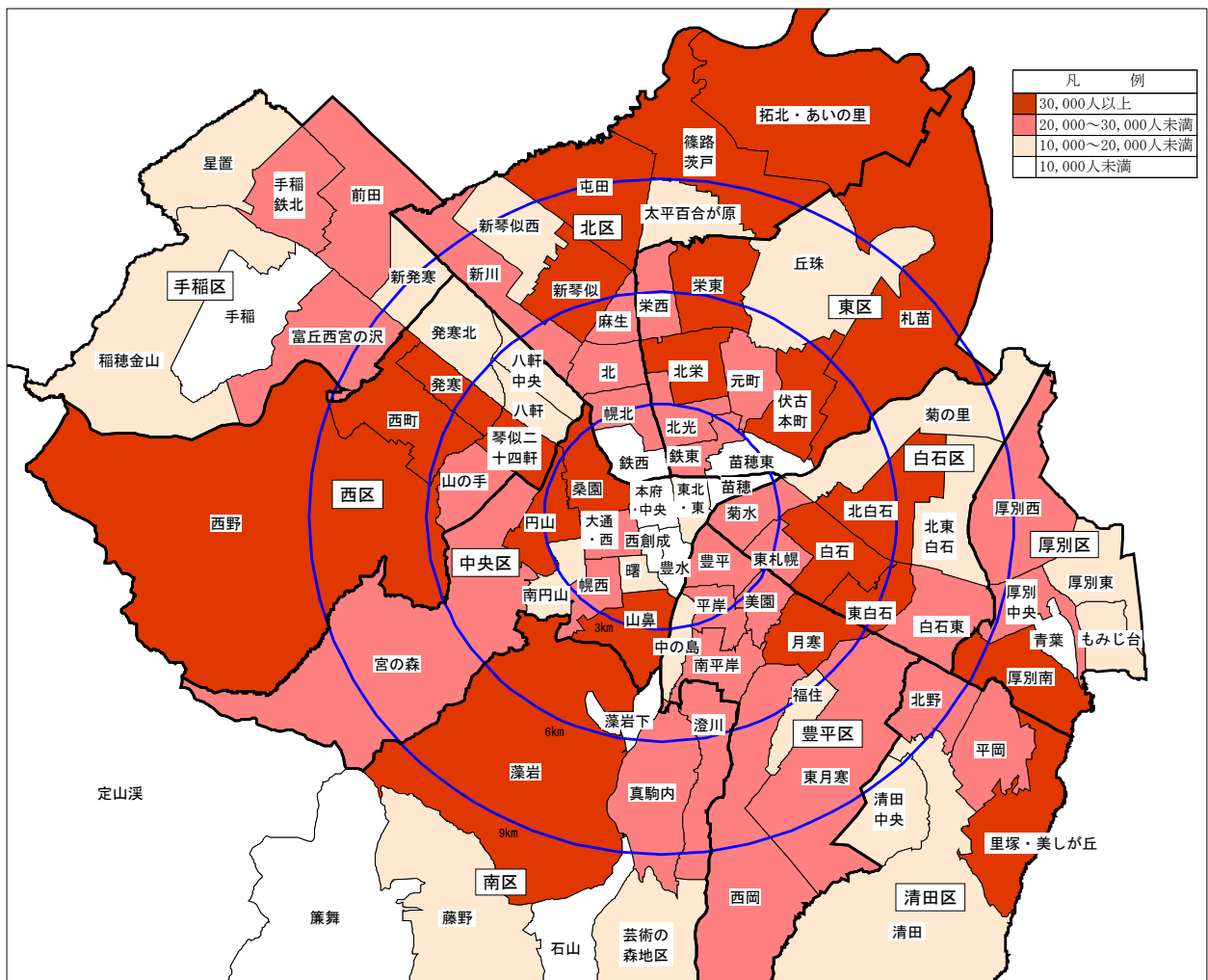
第5-1表 令和2年現在の順位による人口の多いまちづくりセンター

順位 1)	まちづくりセンター	各年10月1日現在 人口	
		平成27年	令和2年
1 (1)	西) 西町	44,211	45,277
2 (2)	白) 白石	39,441	40,001
3 (7)	東) 札苗	36,395	38,470
4 (3)	北) 新琴似	38,750	38,357
5 (5)	豊) 月寒	37,023	38,113
6 (6)	北) 屯田	36,818	38,057
7 (4)	東) 北栄	37,394	37,675
8 (12)	中) 山鼻	34,803	36,434
9 (11)	東) 栄東	34,956	35,282
10 (14)	西) 琴似二十四軒	33,560	35,069

注：1) () 内は平成27年時点の順位。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第5-1図 まちづくりセンター別人口（令和2年10月1日現在）



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

まちづくりセンター別の人口をみると、西区の「西町」が45,277人で最も多く、次いで、白石区の「白石」が40,001人となっており、これらのまちづくりセンターでは4万人を超えている。以下、東区の「札苗」が38,470人と続いている。

平成27年～令和2年にかけてJRや地下鉄沿線のまちづくりセンターで人口が増加（5-2表、第5-2図）

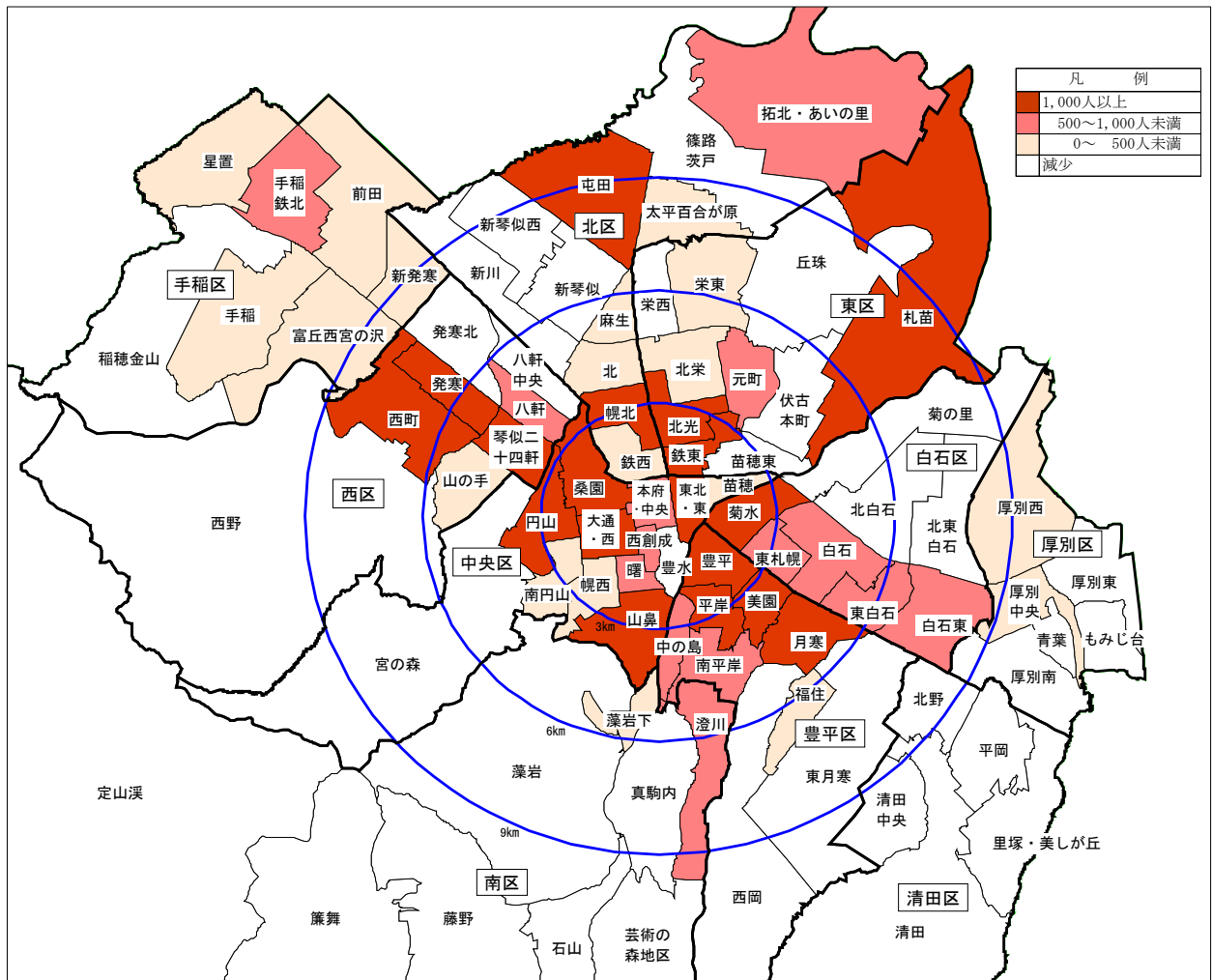
平成27年～令和2年にかけての人口増加数に注目すると、86か所のまちづくりセンターのうち、2,000人以上増加しているまちづくりセンターは4か所、1,000～2,000人未満の増加は14か所、0～1,000人未満の増加は33か所となっており、人口が増加している

第5-2表 人口増加数の多いまちづくりセンター及び少ないまちづくりセンター（平成27年～令和2年）

順位	人口増加数の多いまちづくりセンター		順位	人口増加数の少ないまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	増加数		まちづくりセンター	増加数
1	豊) 平岸	2,142	1	南) 藻岩	△ 2,142
2	中) 東北・東	2,134	2	南) 真駒内	△ 1,598
3	中) 円山	2,077	3	厚) もみじ台	△ 1,464
4	東) 札苗	2,075	4	東) 伏古本町	△ 1,461
5	中) 山鼻	1,631	5	清) 里塚・美しが丘	△ 1,177
6	北) 幌北	1,624	6	厚) 厚別南	△ 1,043
7	東) 鉄東	1,616	7	西) 西野	△ 1,010
8	西) 琴似二十四軒	1,509	8	清) 清田中央	△ 863
9	中) 大通・西	1,458	9	南) 藤野	△ 854
10	中) 桑園	1,349	10	白) 菊の里	△ 777

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第5-2図 まちづくりセンター別人口増加数（平成27年～令和2年）



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

まちづくりセンターは合計で 51 か所となっている。一方、人口が減少しているまちづくりセンターは 35 か所となっている。

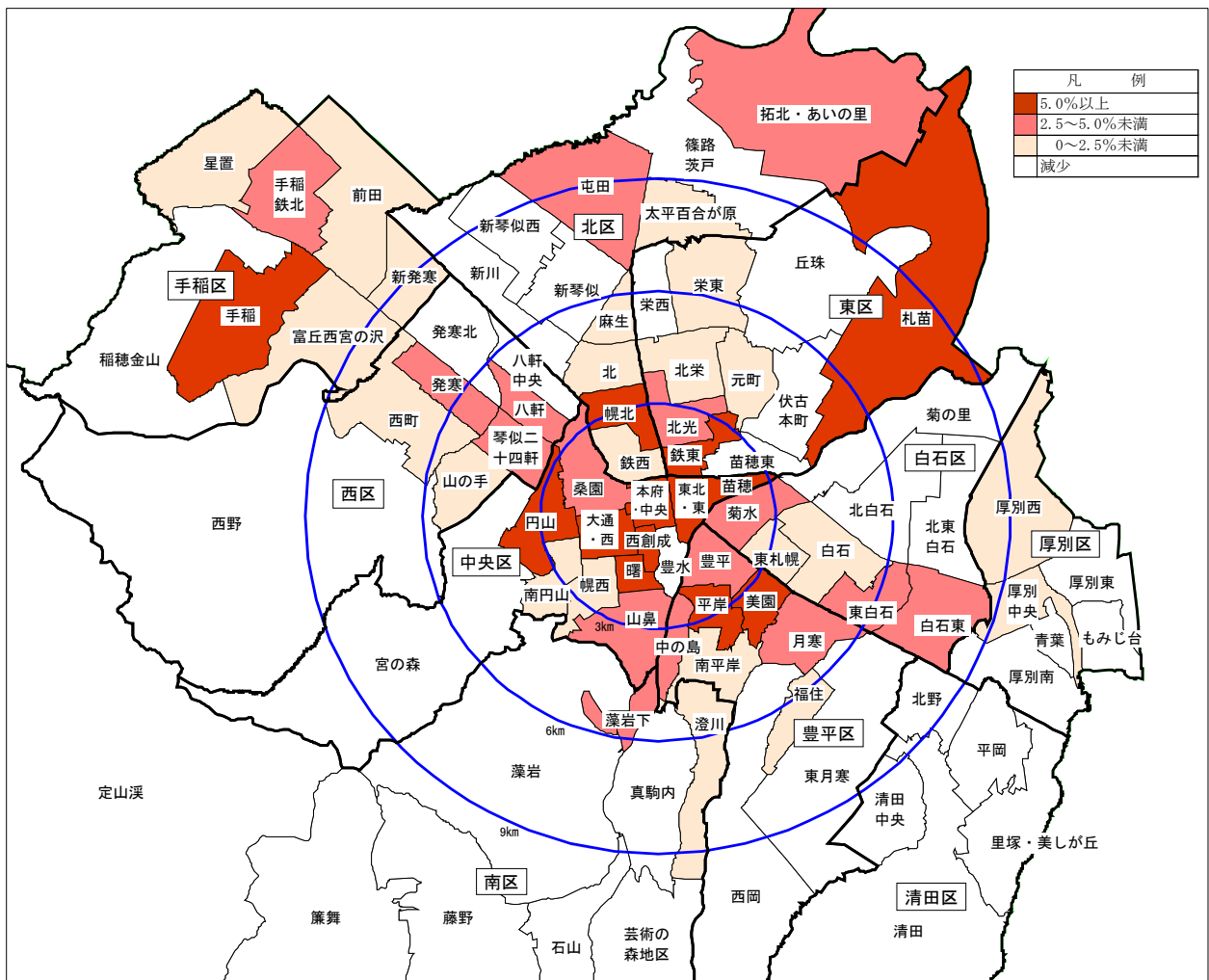
人口が増加しているまちづくりセンターをみると、豊平区の「平岸」が 2,142 人増と最も大きく増加している。以下、中央区の「東北・東」が 2,134 人増、中央区の「円山」が 2,077 人増などと続いている。人口が増加しているまちづくりセンターは、JRや地下鉄沿線の地域に多い傾向がみられる。

一方、人口が減少しているまちづくりセンターをみると、南区の「藻岩」が 2,142 人減と 2 千人を超えて最も大きく減少している。以下、南区の「真駒内」が 1,598 人減、厚別区の「もみじ台」が 1,464 人減などと続いている。厚別区、清田区及び南区では、多くのまちづくりセンターで人口が減少している。

人口増加率が5%を超えるまちづくりセンターは、都心から3km未満の地域に多い（第5-3表、第5-3図）

平成27年～令和2年にかけての人口増加率が高いまちづくりセンターをみると、中央区の「本府・中央」が 27.1%増と3割に迫る増加率で最も高くなっている。以下、中央区の「東北・東」が 12.2%増、豊平区の「平岸」が 8.2%増などと続いている。

第5-3図 まちづくりセンター別人口増加率（平成27年～令和2年）



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

一方、人口増加率の低いまちづくりセンターをみると、南区の「定山溪」が25.6%減と最も低く、以下、厚別区の「もみじ台」が9.5%減、南区の「簾舞」が8.8%減などと続いている。

人口増加率が5%を超えるまちづくりセンターは、都心から3km未満の地域が中心となっているが、東区の「札苗」や、手稲区の「手稲」など郊外の地域にもみられる。

第5-3表 人口増加率の高いまちづくりセンター及び低いまちづくりセンター（平成27年～令和2年）

（単位：%）

順位	人口増加率の高いまちづくりセンター		順位	人口増加率の低いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	増加率		まちづくりセンター	増加率
1	中) 本府・中央	27.1	1	南) 定山溪	△ 25.6
2	中) 東北・東	12.2	2	厚) もみじ台	△ 9.5
3	豊) 平岸	8.2	3	南) 簾舞	△ 8.8
4	中) 西創成	7.4	4	南) 真駒内	△ 6.4
5	東) 鉄東	7.2	5	南) 藻岩	△ 5.9
6	中) 円山	7.1	6	白) 菊の里	△ 5.2
7	北) 幌北	6.4	7	南) 藤野	△ 4.7
7	豊) 美園	6.4	8	東) 伏古本町	△ 4.6
9	中) 曙	5.7	8	清) 清田中央	△ 4.6
9	東) 札苗	5.7	10	南) 石山	△ 4.1

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

2 人口動態

(1) 人口動態

令和4年中の人口増加率が高いまちづくりセンターは、都心から3km未満の地域に多い(第5-4表、第5-4図)

本節では、住民基本台帳による令和4年中のまちづくりセンター別人口動態に注目する。

まちづくりセンター別の人口増加率(人口千人当たりの人口増加数)が高いまちづくりセンターをみると、中央区の「苗穂」が131.9%で100%を超えて最も高く、以下、中央区の「豊水」が37.9%、北区の「幌北」が31.0%などと続いている。

一方、人口増加率が低いまちづくりセンターをみると、厚別区の「もみじ台」がマイナス27.2%で最も

第5-4表 人口増加率の高いまちづくりセンター及び低いまちづくりセンター

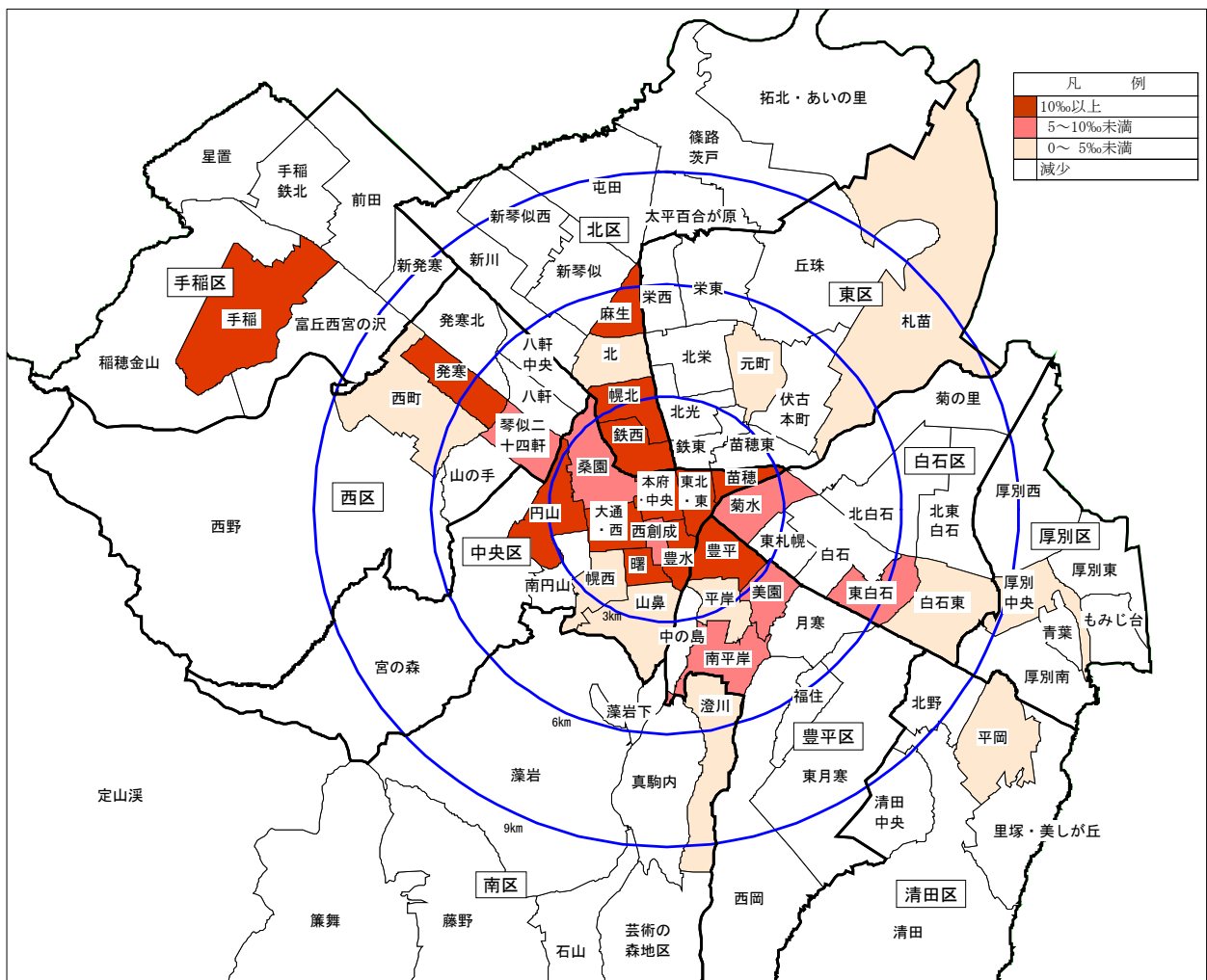
住民基本台帳による。

(単位 %)		令和4年中			
順位	人口増加率の高いまちづくりセンター		順位	人口増加率の低いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	増加率1)		まちづくりセンター	増加率1)
1	中) 苗穂	131.9	1	厚) もみじ台	△ 27.2
2	中) 豊水	37.9	2	南) 真駒内	△ 16.7
3	北) 幌北	31.0	3	厚) 青葉	△ 12.9
4	北) 鉄西	28.8	4	清) 里塚・美しが丘	△ 12.8
5	中) 東北・東	20.5	5	手) 手稲鉄北	△ 12.3
6	中) 本府・中央	19.8	6	北) 屯田	△ 12.2
7	手) 手稲	19.3	7	白) 北白石	△ 11.4
8	豊) 豊平	19.2	8	西) 八軒	△ 11.1
9	中) 曙	13.6	9	北) 新琴似西	△ 11.0
10	西) 登寒	12.5	10	白) 北東白石	△ 10.9

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第5-4図 まちづくりセンター別人口増加率(令和4年中)



注：第5-4表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

低く、以下、南区の「真駒内」がマイナス 16.7%、厚別区の「青葉」がマイナス 12.9%などと続いている。
人口増加率が高いまちづくりセンターは、都心から 3km 未満の地域に多い傾向がみられる。

(2) 自然動態

中央区の「東北・東」を除く全てのまちづくりセンターで自然増加率がマイナス（第 5-5 表）

まちづくりセンター別の自然増加率（人口千人当たりの自然増加数（出生数－死亡数））をみると、中央区の「東北・東」が 0.2%増と全てのまちづくりセンターの中で唯一増加となっている。

一方、それ以外のまちづくりセンターでは減少となっており、増加率の低いまちづくりセンターをみると、南区の「定山溪」がマイナス 28.0%で最も低く、以下、厚別区の「青葉」がマイナス 17.4%、厚別区の「もみじ台」がマイナス 15.8%などと続いている。

自然増加率が低いまちづくりセンターの上位 10 か所のうち、半数は南区のまちづくりセンターとなっている。

出生率は手稲区の「手稲」が 8.5%で最も高い（第 5-6 表、第 5-5 図）

出生率（人口千人当たりの出生数）が高いまちづくりセンターをみると、手稲区の「手稲」が 8.5%で最も高く、以下、中央区の「本府・中央」及び豊平区の「美園」が 8.4%などと続いている。

一方、出生率が低いまちづくりセンターをみると、南区の「簾舞」が 1.8%で最も低く、以下、厚別区の「もみじ台」が 2.0%、厚別区の「青葉」が 2.6%などと続いている。

第5-5表 自然増加率の高いまちづくりセンター及び低いまちづくりセンター

住民基本台帳による。

(単位 %)		令和 4 年中			
順位	自然増加率の高いまちづくりセンター		順位	自然増加率の低いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	増加率 1)		まちづくりセンター	増加率 1)
1	中) 東北・東	0.2	1	南) 定山溪	△ 28.0
2	豊) 美園	△ 1.3	2	厚) 青葉	△ 17.4
3	中) 桑園	△ 1.6	3	厚) もみじ台	△ 15.8
4	白) 菊水	△ 2.0	4	南) 石山	△ 13.4
4	白) 白石東	△ 2.0	4	南) 芸術の森地区	△ 13.4
6	中) 本府・中央	△ 2.1	6	南) 簾舞	△ 12.9
6	豊) 平岸	△ 2.1	7	清) 清田	△ 12.2
8	中) 苗穂	△ 2.2	7	南) 真駒内	△ 12.2
9	西) 発寒	△ 2.5	9	手) 富丘西宮の沢	△ 11.8
10	北) 鉄西	△ 2.6	9	手) 稲穂金山	△ 11.8

注： 1) 比率算出に用いた人口は令和 4 年 10 月 1 日現在の住民基本台帳人口である。
<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

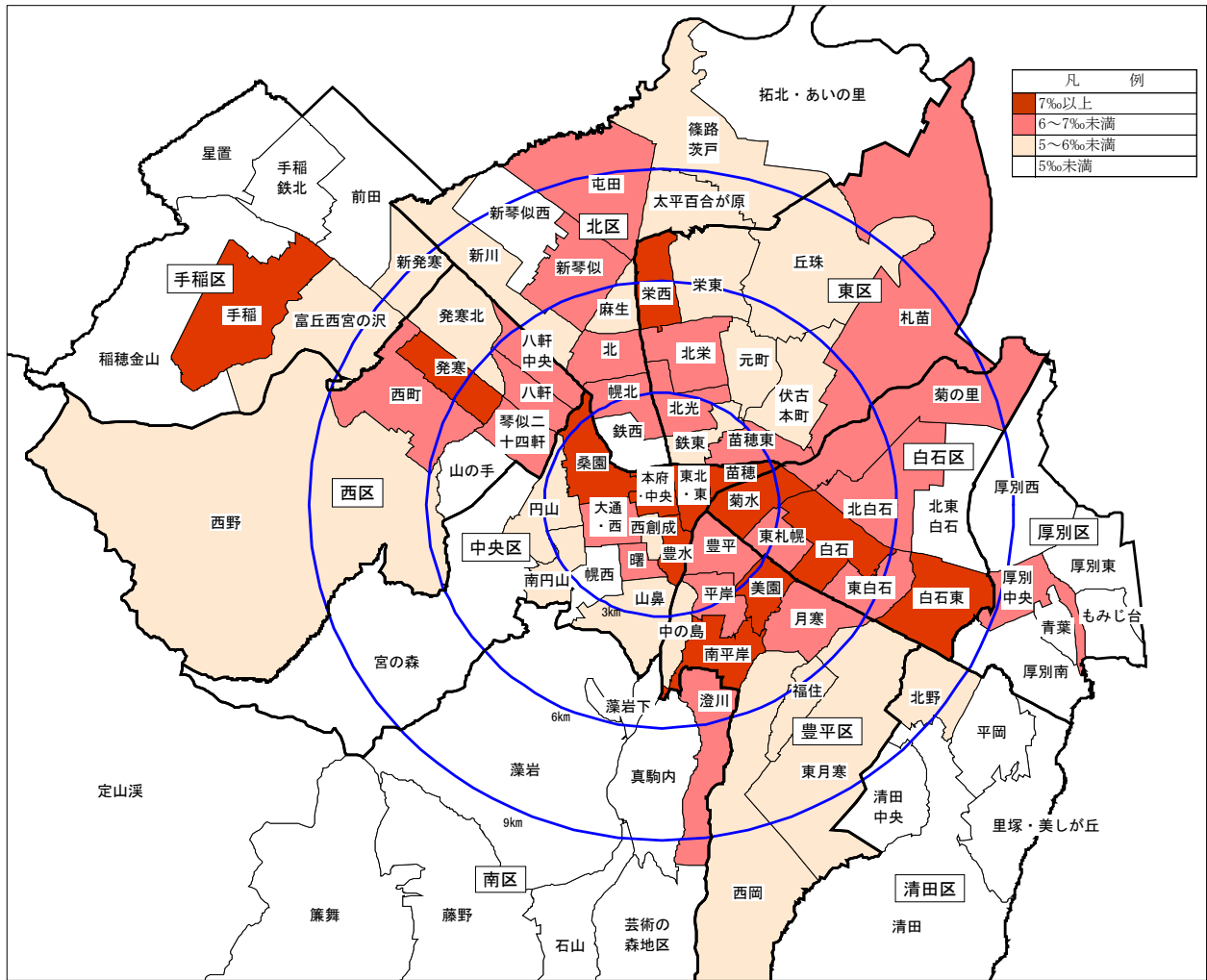
第5-6表 出生率の高いまちづくりセンター及び低いまちづくりセンター

住民基本台帳による。

(単位 %)		令和 4 年中			
順位	出生率の高いまちづくりセンター		順位	出生率の低いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	出生率 1)		まちづくりセンター	出生率 1)
1	手) 手稲	8.5	1	南) 簾舞	1.8
2	中) 本府・中央	8.4	2	厚) もみじ台	2.0
2	豊) 美園	8.4	3	厚) 青葉	2.6
4	中) 苗穂	8.0	4	南) 定山溪	3.1
5	豊) 南平岸	7.9	5	南) 石山	3.3
6	中) 桑園	7.7	6	清) 清田	3.7
7	西) 発寒	7.5	7	南) 真駒内	3.9
8	中) 豊水	7.4	7	手) 稲穂金山	3.9
9	中) 東北・東	7.3	7	手) 星置	3.9
9	白) 白石	7.3	10	厚) 厚別東	4.0
9	白) 白石東	7.3			

注： 1) 比率算出に用いた人口は令和 4 年 10 月 1 日現在の住民基本台帳人口である。
<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第5-5図 まちづくりセンター別出生率（令和4年中）



注： 第5-6表参照。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

死亡率は南区の「定山溪」が31.1%で最も高い（第5-7表、第5-6図）

死亡率（人口千人当たりの死亡数）の高いまちづくりセンターをみると、南区の「定山溪」が31.1%で最も高く、以下、厚別区の「青葉」が20.0%、南区の「芸術の森地区」が18.2%などと続いている。

一方、死亡率の低いまちづくりセンターをみると、中央区の「東北・東」及び北区の「鉄西」が7.1%で最も低く、次いで、北区の「拓北・あいの里」が8.4%などと続いている。

死亡率の高いまちづくりセンターの上位10か所のうち、半数は南区のまちづくりセンターとなっている。

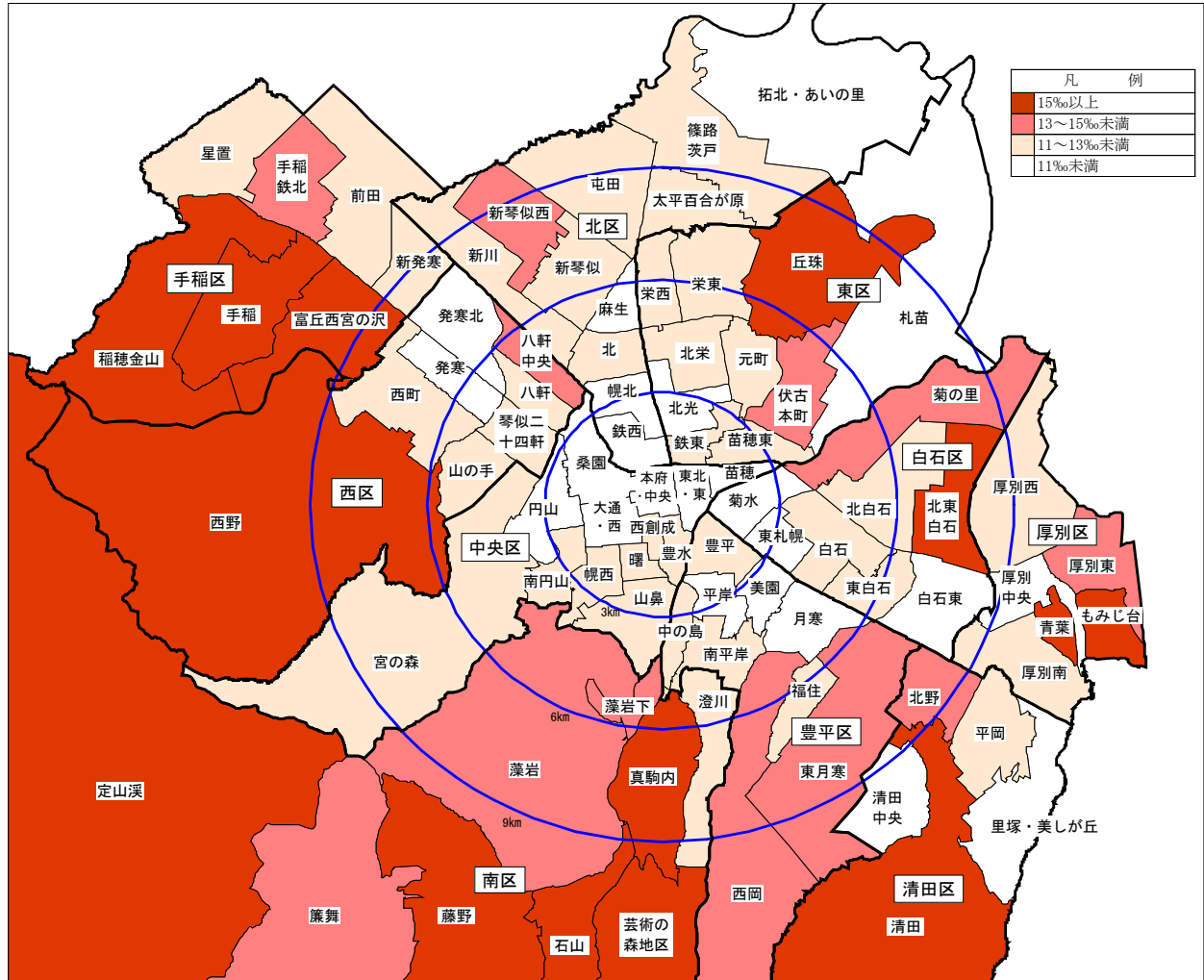
第5-7表 死亡率の高いまちづくりセンター及び低いまちづくりセンター

住民基本台帳による。

(単位 %)		令和4年中			
順位	死亡率の高いまちづくりセンター		順位	死亡率の低いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	死亡率 1)		まちづくりセンター	死亡率 1)
1	南) 定山溪	31.1	1	中) 東北・東	7.1
2	厚) 青葉	20.0	1	北) 鉄西	7.1
3	南) 芸術の森地区	18.2	3	北) 拓北・あいの里	8.4
4	厚) もみじ台	17.8	4	中) 円山	8.8
5	手) 富丘西宮の沢	17.4	5	豊) 平岸	8.9
6	南) 石山	16.7	6	北) 幌北	9.0
7	南) 真駒内	16.1	7	白) 菊水	9.2
8	南) 藤野	16.0	7	清) 里塚・美しが丘	9.2
9	清) 清田	15.8	9	中) 桑園	9.3
9	手) 手稲	15.8	10	白) 白石東	9.4

注： 1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第5-6図 まちづくりセンター別死亡率（令和4年中）



注： 第5-7表参照。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

(3) 社会動態

社会増加率は中央区の「苗穂」が134.1%で最も高い(第5-8表、第5-7図)

社会増加率(人口千人当たりの人口移動者数(市外及び市内からの転入者数-市外及び市内への転出者数))が高いまちづくりセンターをみると、中央区の「苗穂」が134.1%で最も高く、以下、中央区の「豊水」が41.7%、北区の「幌北」が33.9%などと続いている。

一方、社会増加率が低いまちづくりセンターをみると、厚別区の

「もみじ台」がマイナス11.3%で最も低く、以下、清田区の「里塚・美しが丘」がマイナス7.8%、西区の「八軒」がマイナス6.3%などと続いている。

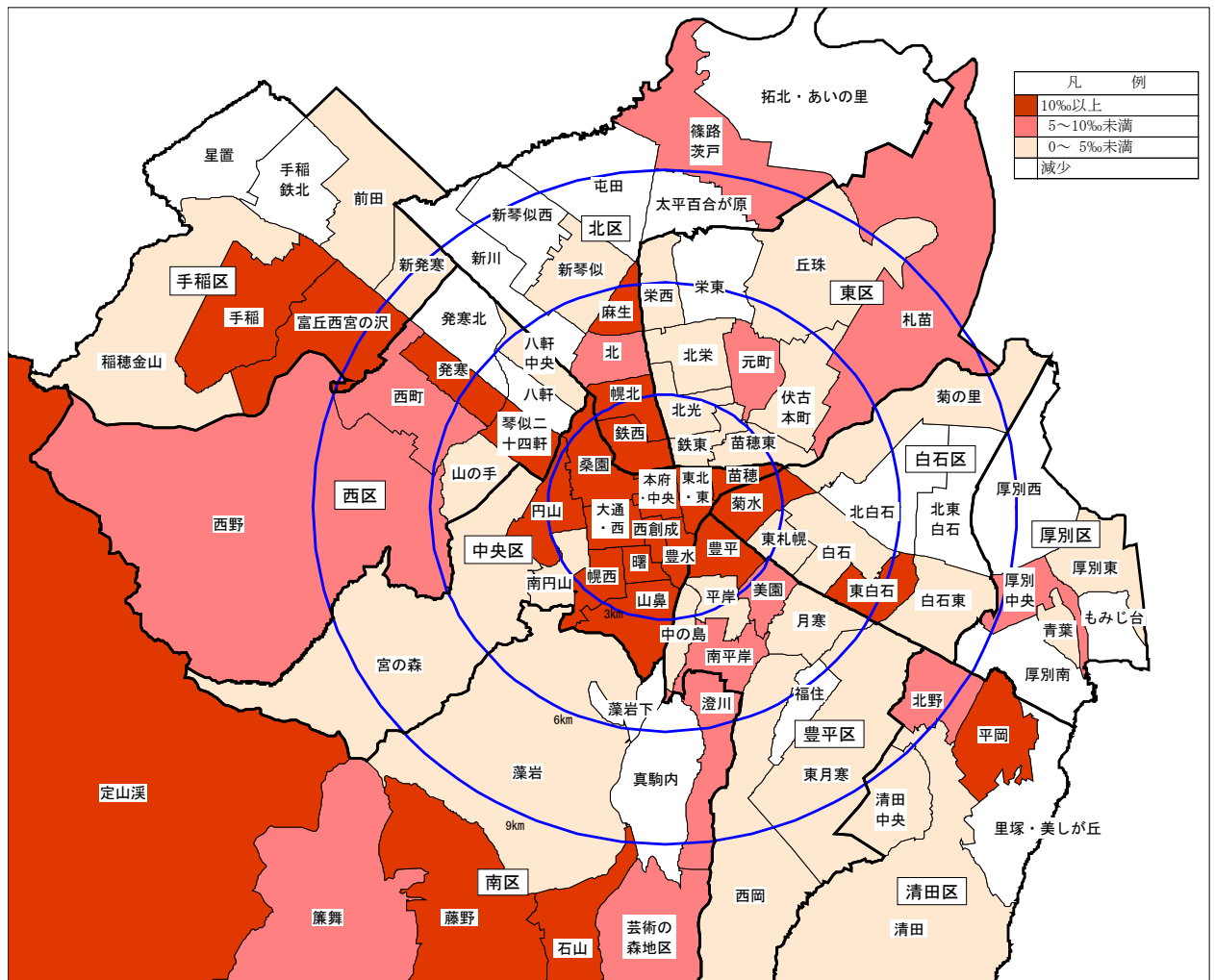
第5-7図 まちづくりセンター別社会増加率(令和4年中)

第5-8表 社会増加率の高いまちづくりセンター及び低いまちづくりセンター

住民基本台帳による。市外及び市内の転出入のほか職権等による増減を含む。

令和4年中					
順位	社会増加率の高いまちづくりセンター		順位	社会増加率の低いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	増加率 ¹⁾		まちづくりセンター	増加率 ¹⁾
1	中) 苗穂	134.1	1	厚) もみじ台	△ 11.3
2	中) 豊水	41.7	2	清) 里塚・美しが丘	△ 7.8
3	北) 幌北	33.9	3	西) 八軒	△ 6.3
4	北) 鉄西	31.4	4	白) 北白石	△ 5.7
5	手) 手稲	26.6	5	北) 屯田	△ 5.6
6	豊) 豊平	24.7	6	南) 真駒内	△ 4.6
7	中) 本府・中央	21.9	7	手) 手稲鉄北	△ 3.7
8	南) 定山溪	21.8	8	北) 新川	△ 2.9
9	中) 東北・東	20.3	9	厚) 厚別西	△ 2.7
10	中) 曙	18.5	10	南) 藻岩下	△ 2.5

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課



注：第5-8表参照。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

都心から3km未満の地域にあるまちづくりセンターの多くで、社会増加率が10%を超えている。

市外移動率は南区の「定山溪」や都心から3km未満の地域で特に高い（第5-9表、第5-8図）

次に、市外からの転入者と市外への転出者の合計を市外移動者とし、市外移動率（人口千人当たりの市外移動者数）が高いまちづくりセンターをみると、南区の「定山溪」が277.0%で最も高く、以下、北区の「鉄西」が217.7%、北区の「幌北」が201.1%などと続いている。

第5-9表 市外移動率の高いまちづくりセンター及び低いまちづくりセンター

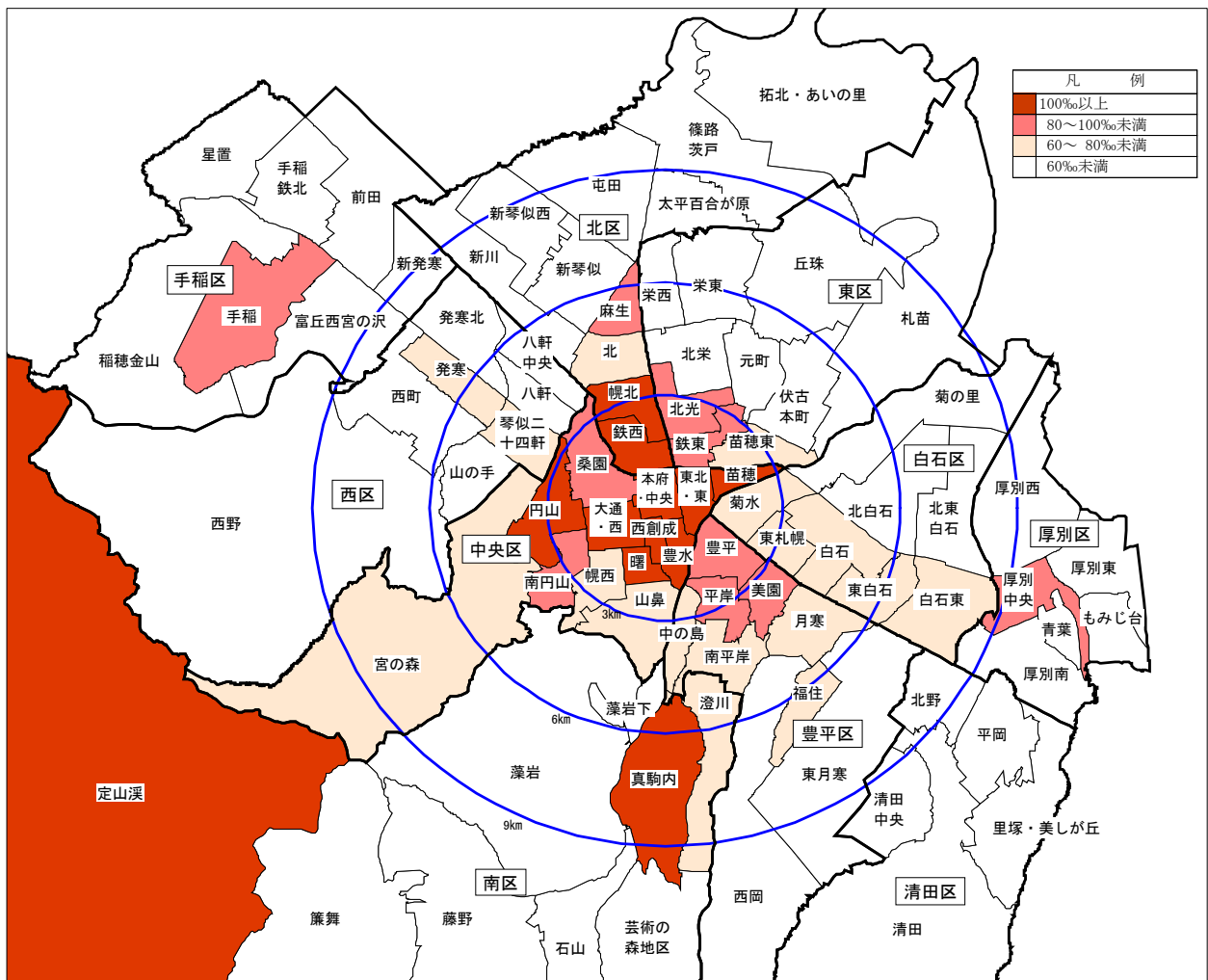
住民基本台帳による。市外移動は市外転入と市外転出の合計である。

(単位 %) 令和4年中

順位	市外移動率の高いまちづくりセンター		順位	市外移動率の低いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	市外移動率1)		まちづくりセンター	市外移動率1)
1	南) 定山溪	277.0	1	西) 西野	25.0
2	北) 鉄西	217.7	2	南) 簾舞	27.9
3	北) 幌北	201.1	3	南) 芸術の森地区	28.3
4	中) 本府・中央	182.8	4	北) 新琴似西	28.8
5	中) 豊水	150.7	5	南) 藤野	29.0
6	中) 東北・東	138.8	6	厚) もみじ台	29.2
7	中) 大通・西	136.8	6	清) 清田中央	29.2
8	南) 真駒内	133.5	8	南) 石山	29.4
9	中) 苗穂	122.1	9	北) 太平百合が原	29.6
10	中) 西創成	119.0	10	北) 篠路茨戸	30.0

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第5-8図 まちづくりセンター別市外移動率（令和4年中）



注：第5-9表参照。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

一方、市外移動率が低いまちづくりセンターをみると、西区の「西野」が25.0%で最も低く、以下、南区の「簾舞」が27.9%、南区の「芸術の森地区」が28.3%などと続いている。

市外移動率は、南区の「定山溪」や都心から3km未滿の地域にあるまちづくりセンターで特に高い傾向がみられる。

道外からの転入率は、都心から3km未滿の地域で特に高い（第5-10表、第5-9図）

道内からの転入率（人口千人当たりの道内からの転入者数）が高いまちづくりセンターをみると、南区の「定山溪」が76.8%で最も高く、以下、中央区の「苗穂」が41.5%、中央区の「大通・西」が41.0%などと続いている。

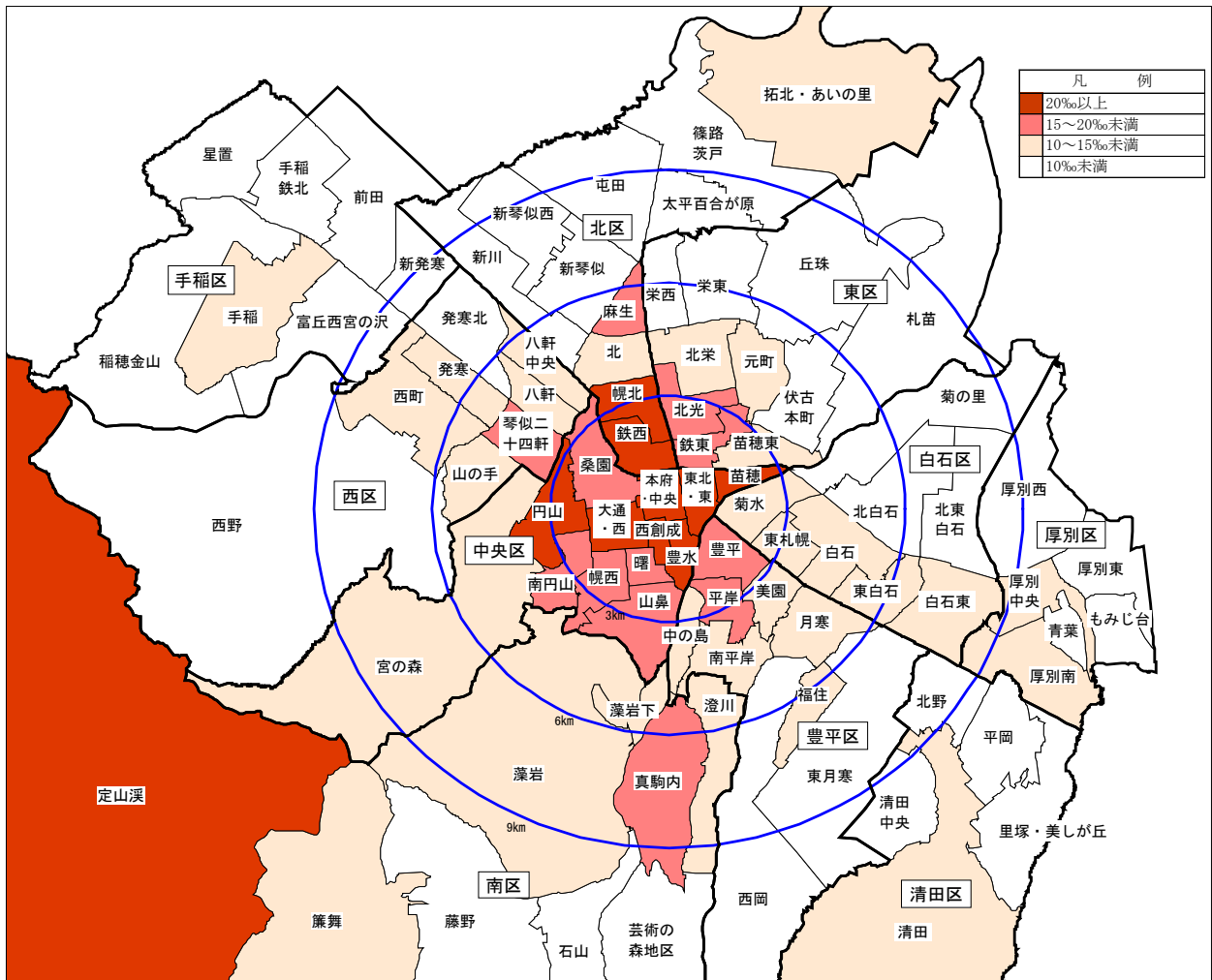
第5-10表 道内、道外からの転入率の高いまちづくりセンター

住民基本台帳による。

(単位 %)		令和4年中			
順位	道内からの転入率の高いまちづくりセンター		順位	道外からの転入率の高いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	転入率 1)		まちづくりセンター	転入率 1)
1	南) 定山溪	76.8	1	北) 鉄西	115.5
2	中) 苗穂	41.5	2	南) 定山溪	101.7
3	中) 大通・西	41.0	3	北) 幌北	87.4
4	南) 真駒内	40.0	4	中) 本府・中央	82.6
5	豊) 豊平	33.1	5	中) 豊水	57.6
6	手) 手稲	32.7	6	中) 東北・東	48.1
7	中) 豊水	32.2	7	中) 苗穂	43.0
8	厚) 厚別中央	31.6	8	中) 円山	42.0
9	中) 西創成	30.8	9	中) 西創成	39.0
10	北) 麻生	30.7	10	中) 大通・西	38.9

注： 1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第5-9図 まちづくりセンター別道外転入率（令和4年中）



注： 第5-10表参照。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

次に、道外からの転入率（人口千人当たりの道外からの転入者数）が高いまちづくりセンターをみると、北区の「鉄西」が115.5%で最も高く、以下、南区の「定山溪」が101.7%、北区の「幌北」が87.4%などと続いている。

道外からの転入率は、都心から3km未満の地域にあるまちづくりセンターなどで特に高い傾向がみられる。

道内への転出率が高いまちづくりセンターでは、道内からの転入率も高い傾向（第5-11表、第5-10図）

道内への転出率（人口千人当

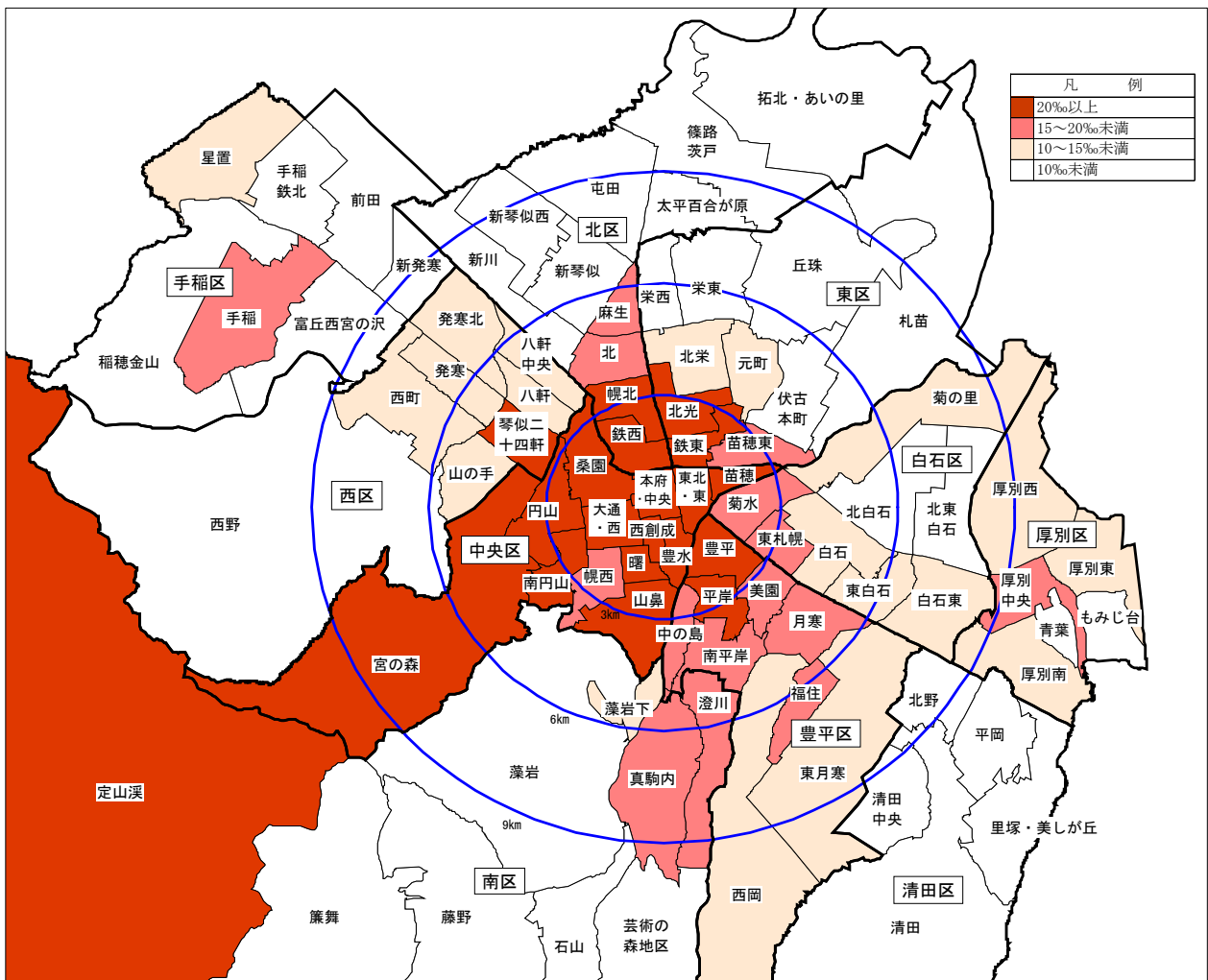
第5-11表 道内、道外への転出率の高いまちづくりセンター

住民基本台帳による。

(単位 %)		令和4年中			
順位	道内への転出率の高いまちづくりセンター		順位	道外への転出率の高いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	転出率1)		まちづくりセンター	転出率1)
1	南) 定山溪	67.4	1	北) 鉄西	65.0
2	南) 真駒内	48.7	2	北) 幌北	62.6
3	中) 大通・西	22.8	3	中) 本府・中央	53.1
4	北) 幌北	20.6	4	中) 東北・東	48.9
5	厚) 厚別中央	20.2	5	中) 豊水	46.2
6	豊) 平岸	20.0	6	中) 円山	35.5
7	中) 本府・中央	19.0	7	中) 大通・西	34.1
8	白) 白石東	18.3	8	中) 西創成	33.1
9	中) 曙	18.1	9	南) 定山溪	31.1
9	北) 麻生	18.1	10	中) 南円山	26.4
9	豊) 豊平	18.1			

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第5-10図 まちづくりセンター別道外転出率（令和4年中）



注： 第5-11表参照。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

りの道内への転出者数)が高いまちづくりセンターをみると、南区の「定山溪」が67.4%で最も高く、以下、南区の「真駒内」が48.7%、中央区の「大通・西」が22.8%などと続いている。

次に、道外への転出率(人口千人当たりの道外への転出者数)が高いまちづくりセンターをみると、北区の「鉄西」が65.0%で最も高く、以下、北区の「幌北」が62.6%、中央区の「本府・中央」が53.1%などと続いている。道外への転出率は、道外からの転入率と同様に、都心から3km未満の地域にあるまちづくりセンターで特に高い傾向がみられる。

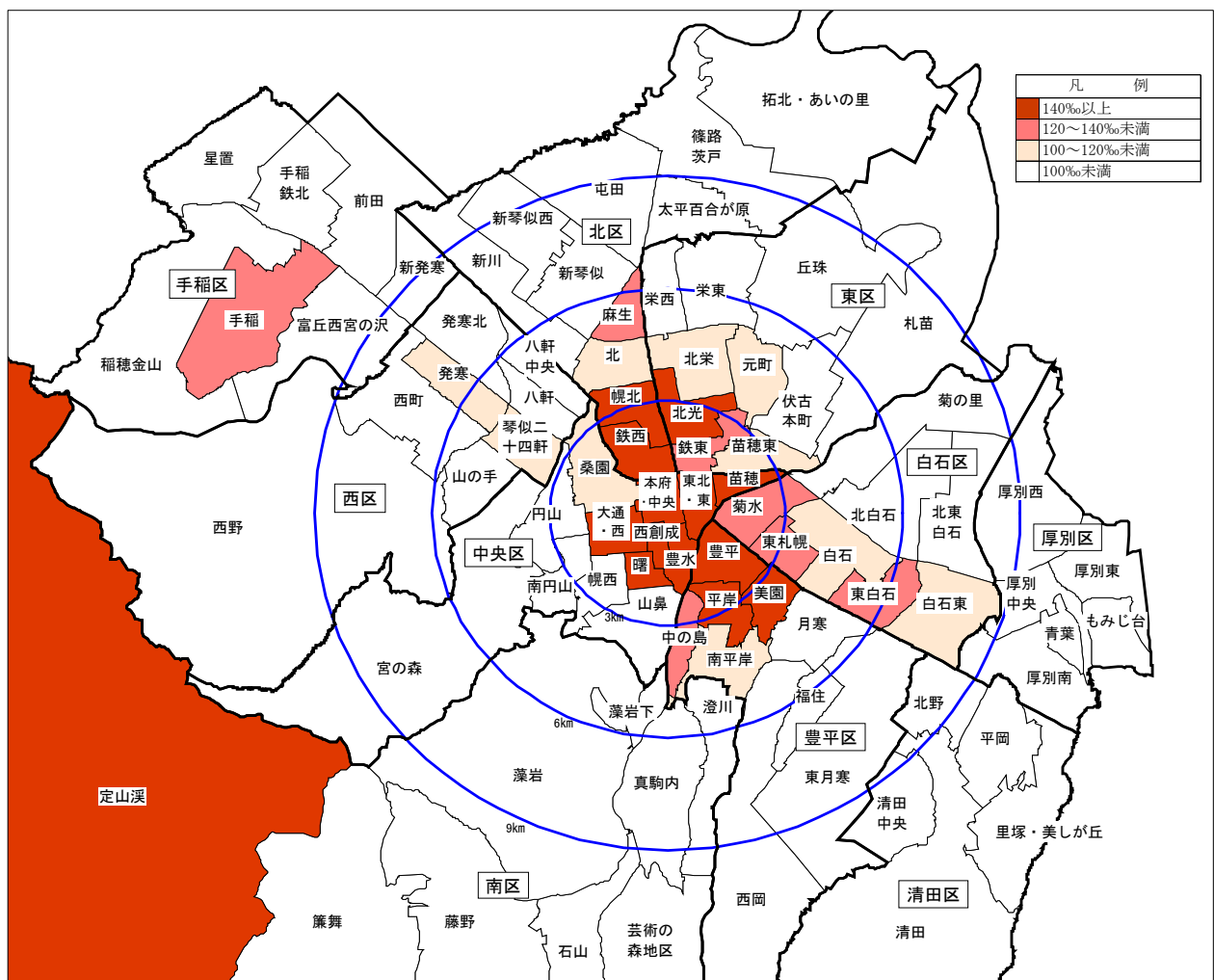
道内及び道外への転出率が高いまちづくりセンターは、それぞれ道内及び道外からの転入率も高い傾向となっている。

市内間移動率の高いまちづくりセンターは都心から3km未満の地域に多い(第5-12表、第5-11図)

市内での移動状況について、区間及び区内の転入者、転出者の合計を市内間移動者とし、市内間移動率(人口千人当たりの市内間移動者数)が高いまちづくりセンターをみると、中央区の「西創成」が211.7%で最も高く、以下、中央区の「豊水」が194.8%、中央区の「苗穂」が187.6%などと続いている。

一方、市内間移動率が低いまちづくりセンターをみると、北区の「拓北・あいの里」が41.9%で最も低く、以下、手稲区の「星置」が43.6%、清田区の「清田中央」が44.1%などと続いている。

第5-11図 まちづくりセンター別市内間移動率(令和4年中)



注： 第5-12表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

市内間移動率の高いまちづくりセンターは、都心から3km未満の地域に多い傾向がみられる。一方、市内間移動率の低いまちづくりセンターは、都心から9km以上離れた地域に多い傾向がみられる。

区間転入率の高いまちづくりセンターは、都心から3km未満や地下鉄沿線などの地域に多い（第5-13表、第5-12図）

区間転入率（人口千人当たりの市内他区からの転入者数）が高いまちづくりセンターをみると、中央区の「苗穂」が97.8%で最も高く、以下、中央区の「豊水」が

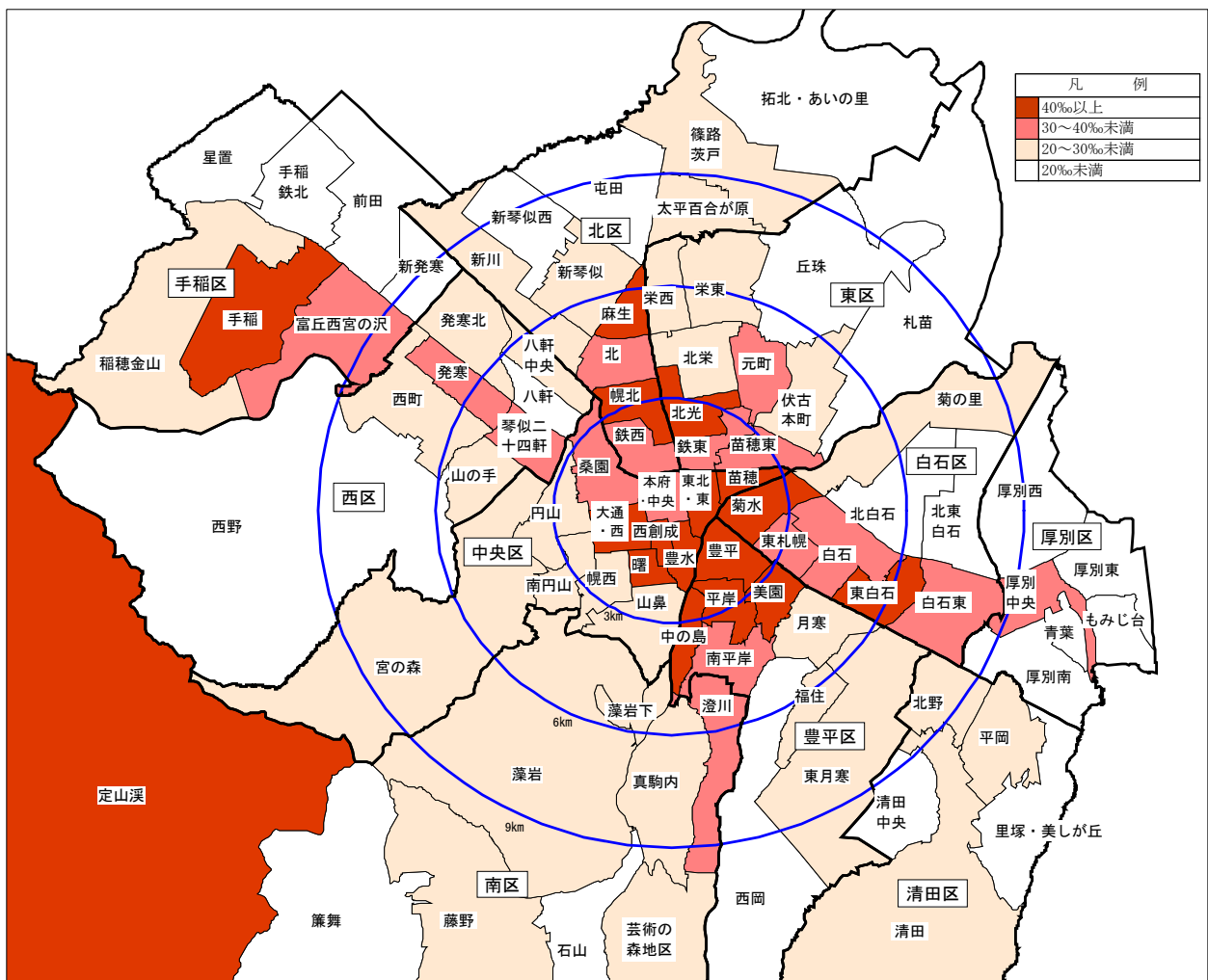
第5-12表 市内間移動率の高いまちづくりセンター及び低いまちづくりセンター

住民基本台帳による。同一まちづくりセンター内の移動を除く。
市内間移動は区間転入と区間転出及び区内転入と区内転出の合計である。

(単位 %)		令和4年中			
順位	市内間移動率の高いまちづくりセンター		順位	市内間移動率の低いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	市内間移動率 ¹⁾		まちづくりセンター	市内間移動率 ¹⁾
1	中) 西創成	211.7	1	北) 拓北・あいの里	41.9
2	中) 豊水	194.8	2	手) 星置	43.6
3	中) 苗穂	187.6	3	清) 清田中央	44.1
4	中) 曙	181.2	4	清) 里塚・美しが丘	46.0
5	南) 定山溪	171.2	5	手) 新発寒	48.9
6	中) 大通・西	157.8	6	厚) 厚別西	50.5
7	豊) 美園	154.4	7	南) 芸術の森地区	52.6
8	中) 本府・中央	148.3	8	厚) もみじ台	53.9
9	豊) 平岸	147.4	9	南) 石山	54.7
10	北) 鉄西	146.6	10	厚) 青葉	55.4
			10	南) 藻岩	55.4

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。
＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

第5-12図 まちづくりセンター別区間転入率（令和4年中）



注： 第5-13表参照。
＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

63.9%、豊平区の「豊平」が55.7%などと続いている。区間転入率の高いまちづくりセンターは、都心から3km未滿やJR及び地下鉄沿線などの地域に多い傾向がみられる。

次に、区内転入率（人口千人当たりの区内まちづくりセンターからの転入者数）の高いまちづくりセンターをみると、中央区の「西創成」が47.8%で最も高く、以下、中央区の「曙」が43.9%、中央区の「豊水」が39.9%などと続いている。区内転入率の高い上位5か所は、中央区のまちづくりセンターが占めている。

区間転出率の高いまちづくりセンターは、区間転入率と同様に都心から3km未滿や地下鉄沿線に多い（第5-14表、第5-13図）

区間転出率（人口千人当たりの市内他区への転出者数）の高いまちづくりセンターをみると、南区の「定山溪」が59.1%で最も高く、以下、中央区の「西創成」が52.5%、豊平区の「美園」が50.6%などと続いている。区間転出率の高いまちづくりセンターは、区間転入率と同様に、都心から3km未滿や地下鉄沿線に多くなっている。

次に、区内転出率（人口千人当たりの区内まちづくりセンターへの転出者数）の高いまちづくりセンターをみると、中央区の「西創成」が56.9%で最も高く、以下、南区の「定山溪」が55.0%、中央区の「本府・中央」が52.7%などと続いている。区内転出率の高い上位10か所のうち、半数は中央区のまちづくりセンターが占めている。

第5-13表 区間、区内転入率の高いまちづくりセンター

住民基本台帳による。同一まちづくりセンター内の移動を除く。

(単位 %) 令和4年中

順位	区間転入率の高いまちづくりセンター		順位	区内転入率の高いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	区間転入率1)		まちづくりセンター	区内転入率1)
1	中) 苗穂	97.8	1	中) 西創成	47.8
2	中) 豊水	63.9	2	中) 曙	43.9
3	豊) 豊平	55.7	3	中) 豊水	39.9
4	中) 西創成	54.5	4	中) 苗穂	39.6
5	中) 東北・東	50.0	5	中) 本府・中央	32.0
6	中) 曙	48.7	6	手) 手稲	31.5
7	豊) 美園	48.0	7	中) 大通・西	30.4
8	豊) 平岸	46.7	7	東) 元町	30.4
9	白) 菊水	46.6	9	中) 幌西	27.7
10	北) 幌北	45.4	10	北) 幌北	26.5
			10	豊) 美園	26.5

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第5-14表 区間、区内転出率の高いまちづくりセンター

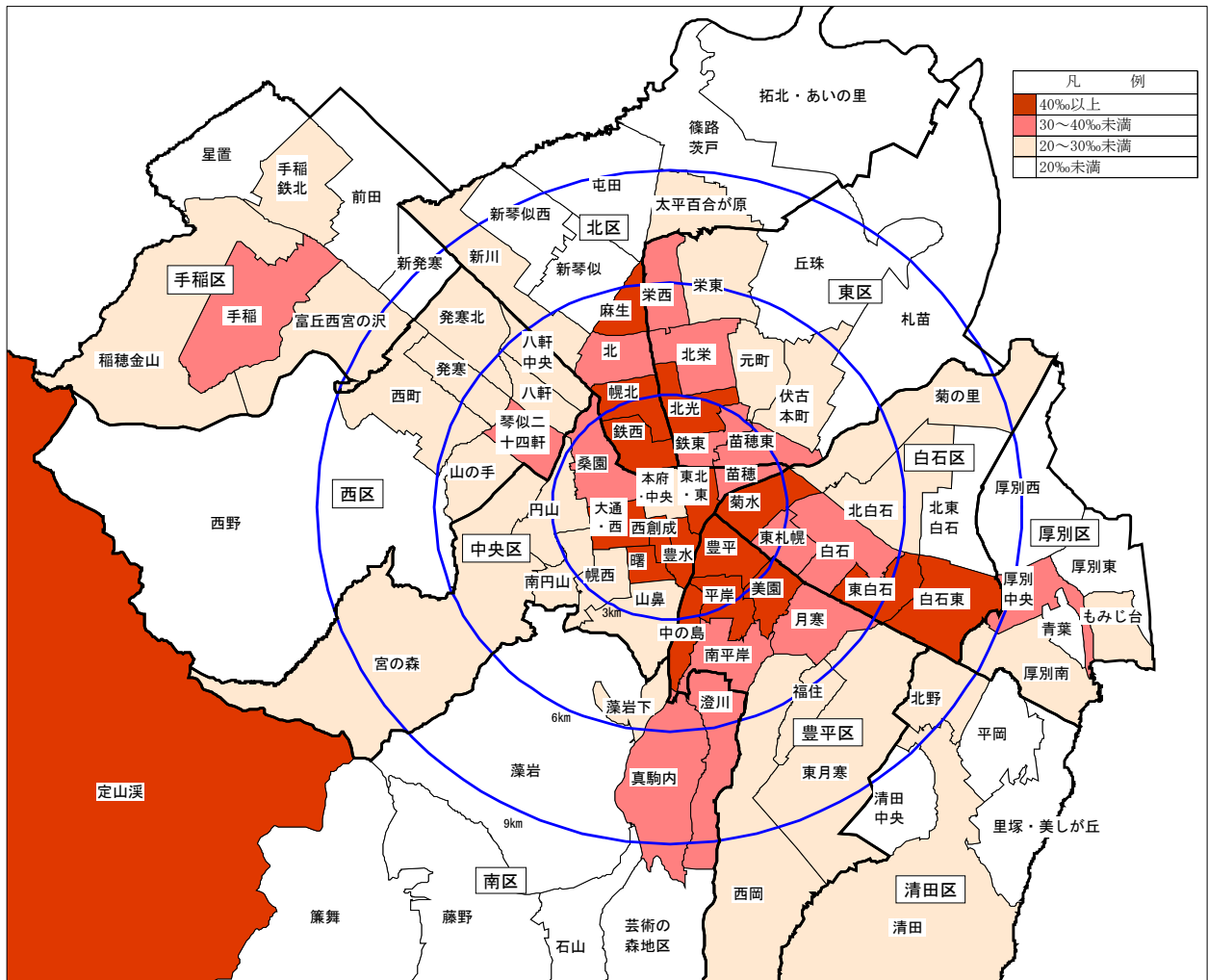
住民基本台帳による。同一まちづくりセンター内の移動を除く。

(単位 %) 令和4年中

順位	区間転出率の高いまちづくりセンター		順位	区内転出率の高いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	区間転出率1)		まちづくりセンター	区内転出率1)
1	南) 定山溪	59.1	1	中) 西創成	56.9
2	中) 西創成	52.5	2	南) 定山溪	55.0
3	豊) 美園	50.6	3	中) 本府・中央	52.7
4	北) 幌北	50.3	4	中) 豊水	45.6
5	豊) 豊平	49.2	5	中) 曙	39.8
6	中) 曙	48.9	6	中) 大通・西	39.4
7	東) 北光	48.6	7	北) 鉄西	38.1
7	豊) 平岸	48.6	8	豊) 美園	29.4
9	白) 菊水	47.7	9	東) 元町	28.2
10	北) 鉄西	46.5	10	豊) 平岸	27.8

注：1) 比率算出に用いた人口は令和4年10月1日現在の住民基本台帳人口である。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第5-13図 まちづくりセンター別区間転出率（令和4年中）



注： 第5-14表参照。
 <資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

3 昼間人口

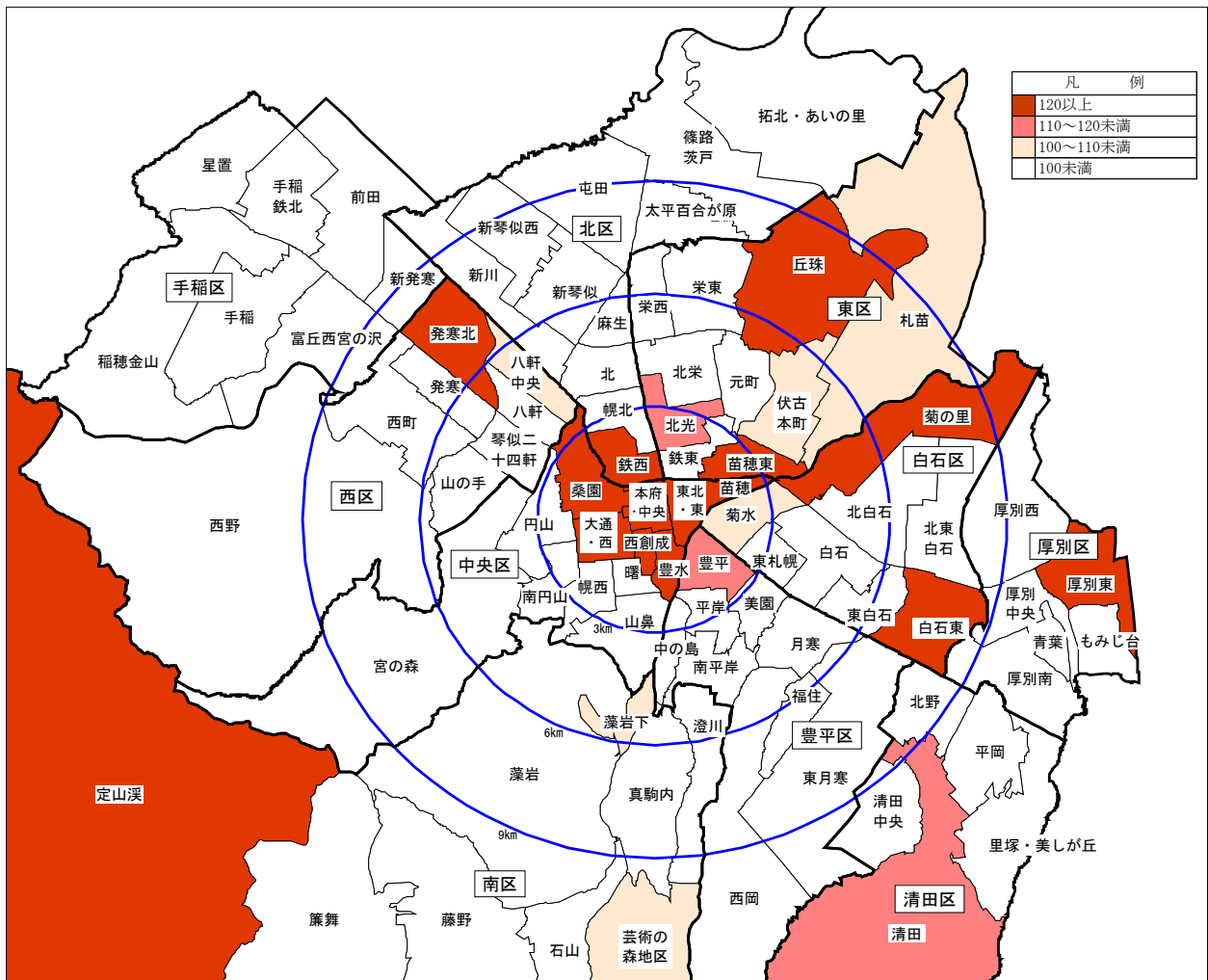
昼間人口は、中央区の「本府・中央」が119,757人で突出して多い（第5-15表）

ここでは、「国勢調査」、「経済センサス」及び「学校基本調査」の結果を用いて、札幌市で独自に推計した令和2年10月1日現在のまちづくりセンター別昼間人口に注目する。

昼間人口が30,000人以上のまちづくりセンターの数は19か所、20,000～30,000人未満のまちづくりセンターは29か所、10,000～20,000人未満のまちづくりセンターは31か所、10,000人未満のまちづくりセンターは7か所となっている。

まちづくりセンター別に昼間人口をみると、中央区の「本府・中央」が119,757人で突出して多く、以下、北区の「鉄西」が53,535人、中央区の「大通・西」が46,413人などと続いている。

第5-14図 まちづくりセンター別昼夜間人口比率（令和2年10月1日現在）



注： 第5-16表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課「国勢調査」

第5-15表 昼間人口の多いまちづくりセンター

令和2年10月1日現在

順位	まちづくりセンター	昼間人口 1)	常住人口 (夜間人口) 2)
1	中) 本府・中央	119,757	2,522
2	北) 鉄西	53,535	8,090
3	中) 大通・西	46,413	28,123
4	東) 札苗	39,294	38,470
5	中) 桑園	39,096	30,312
6	白) 白石	38,342	40,001
7	西) 西町	37,258	45,277
8	西) 琴似二十四軒	35,003	35,069
9	南) 藻岩	32,755	33,946
10	厚) 厚別南	32,553	34,947

注： 1) 「国勢調査」、「経済センサス」及び「学校基本調査」の結果を用いて推計した。 2) 「国勢調査」による。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

昼夜間人口比率は、「本府・中央」が4,748.5で突出して高い（第5-16表、第5-14図）

昼夜間人口比率（常住人口100人当たりの昼間人口）をみると、中央区の「本府・中央」が4,748.5で突出して高く、以下、北区の「鉄西」が661.7、南区の「定山溪」が205.2などと続いている。

一方、昼夜間人口比率の低いまちづくりセンターをみると、豊平区の「福住」が69.3で最も低く、以下、南区の「簾舞」が70.0、北区の「拓北・あいの里」が70.4などと続いている。

昼夜間人口比率の高いまちづくりセンターの上位には、都心から3km未満の地域が多いが、南区の「定山溪」や東区の「丘珠」など郊外の地域もみられる。

昼間人口に占める就業者割合は、中央区の「本府・中央」が9割を超える（第5-17表）

昼間人口に占める就業者割合の高いまちづくりセンターをみると、中央区の「本府・中央」が96.3%と9割を超えて最も高く、以下、南区の「定山溪」が75.2%、中央の「苗穂」が68.7%などと続いている。

昼間人口に占める就業者割合の高いまちづくりセンターの上位には、都心から3km未満の地域が多い傾向がみられる。

第5-16表 昼夜間人口比率の高いまちづくりセンター及び低いまちづくりセンター

昼間人口は「国勢調査」、「経済センサス」及び「学校基本調査」の結果を用いて推計した。

令和2年10月1日現在

順位	昼夜間人口比率の高いまちづくりセンター		順位	昼夜間人口比率の低いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	昼夜間人口比率 ¹⁾		まちづくりセンター	昼夜間人口比率 ¹⁾
1	中) 本府・中央	4,748.5	1	豊) 福住	69.3
2	北) 鉄西	661.7	2	南) 簾舞	70.0
3	南) 定山溪	205.2	3	北) 拓北・あいの里	70.4
4	中) 豊水	187.8	4	清) 里塚・美しが丘	71.5
5	中) 大通・西	165.0	5	西) 西野	71.8
6	中) 東北・東	163.2	6	北) 屯田	72.9
7	東) 苗穂東	151.3	7	中) 幌西	73.1
8	中) 苗穂	142.3	8	手) 新発寒	73.6
9	中) 西創成	141.6	9	北) 麻生	73.9
10	東) 丘珠	135.0	10	西) 発寒	74.6

注：1) 常住人口100人当たりの昼間人口。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

昼間人口に占める通学者割合は、清田区の「清田中央」が最も高い（第5-17表）

昼間人口に占める通学者割合の高いまちづくりセンターをみると、札幌国際大学などが所在する清田区の「清田中央」が29.5%で最も高く、以下、北海学園大学や北海商科大学などが所在する豊平区の「豊平」が28.0%、北海道大学が所在する北区の「鉄西」が26.1%などと続いている。

昼間人口に占める通学者割合は、大規模な学校が所在している地域で高い傾向となっている。

第5-17表 昼間人口に占める就業者割合の高いまちづくりセンター及び通学者割合の高いまちづくりセンター

昼間人口は「国勢調査」、「経済センサス」及び「学校基本調査」の結果を用いて推計した。

(単位 %)

令和2年10月1日現在

順位	昼間人口に占める就業者割合の高いまちづくりセンター		順位	昼間人口に占める通学者割合の高いまちづくりセンター	
	まちづくりセンター	割合		まちづくりセンター	割合
1	中) 本府・中央	96.3	1	清) 清田中央	29.5
2	南) 定山溪	75.2	2	豊) 豊平	28.0
3	中) 苗穂	68.7	3	北) 鉄西	26.1
4	北) 鉄西	68.0	4	手) 前田	24.7
5	中) 豊水	67.5	5	東) 北光	21.6
5	東) 苗穂東	67.5	6	北) 拓北・あいの里	19.5
7	中) 東北・東	65.9	7	手) 星置	17.4
8	中) 桑園	57.2	8	厚) 厚別南	17.0
9	東) 丘珠	56.9	9	手) 手稲	16.6
9	白) 白石東	56.9	10	豊) 西岡	15.7

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課